



コレクション展

百椿図 一椿をめぐる文雅の世界—

One Hundred Camellias: Blossoms Heralded in Literature

2012年1月7日[土]~2月12日[日]

[休館日] 月曜日 ただし1月9日(月・祝)は開館、翌10日(火)休館



百椿図 2巻のうち 江戸時代 17世紀 根津美術館蔵

展示室 1

根津美術館では、2012年1月7日[土]から2月12日[日]まで、コレクション展「百椿図 一椿をめぐる文雅の世界—」を開催いたします。

椿は照葉樹林帯を代表する花木であり、日本でも奈良時代以来、親しまれた植物です。早く万葉集にも詠じられ、さまざまな絵画作品にも描かれてきましたが、江戸初期、空前の椿園芸ブームのなかで珍しい品種への注目が高まり、そのなかで多種多様な椿を集めた書物や図譜が制作されました。

平成6年に茂木克己氏より当館に寄贈された「百椿図」は、2巻の巻物に100種以上の園芸品種の椿を描きだした作品です。単に椿の花を描くのではなく、さまざまな身の回りの器物に飾ってあらわしています。丹波（現在の兵庫県）篠山藩主・松平忠国（1592~1659）が作らせたもので、絵の筆者は京狩野家の祖・狩野山楽と伝えられています。また図の多くには、当時を代表する文化人たちが、園芸品種としての風情ある名前とともに漢詩や和歌などの賛を寄せており、当代における椿愛好の高尚をうかがうことができます。

本展では、「百椿図」2巻、計約24メートルを可能な限り広げて展示、その全貌をご覧ください。室町時代の花鳥画や江戸時代の工芸品など関連する椿図とあわせて、新春を華やかに飾ります。

多種多彩な園芸椿のオンパレード



「百椿図」には、「本之巻」「末之巻」の2巻の巻物に、合計68図の椿が描かれています。1図に2種類以上の椿を描くものも少なくなく、合計すると100種類以上もの園芸品種の椿が登場します。現在は伝わっていない品種もあり、往時の椿の顔ぶれを目にすることができます。

江戸時代のフラワーアレンジメント



単に椿の花を描くのではなく、様々な器物を花器に見立て、そこに椿をあしらってあらわすのが「百椿図」の特徴。陶磁器の花瓶や水指、さまざまな材質の籠、三方や高杯といった台はもとより、盃や茶碗などの食器、文箱や硯箱などの文房具、扇や団扇、あるいは鼓、色紙や冊子、はては聖護院大根にいたるまで、身の回りの品に椿を自由に配しています。

椿をめぐる雅な文学の世界



江戸初期の椿愛好を支えたのは当時の上流階級の人々。珍しい品種を求める椿マニアも少なくありませんでした。「百椿図」には皇族や門跡、公家や大名、歌人や連歌師、俳人、国学者や儒学者、僧侶など49人が和歌や漢詩の賛を寄せています。49人のうちの一人で「末之巻」の最後に着賛している松平忠国とその息子・信之が二代にわたり、賛を書いてもらったようです。

[その他の展示作品]



色絵椿輪花向付
尾形乾山作 5口
江戸時代 18世紀
根津美術館蔵

可憐で、かつ明確なかたちを持つ椿。尾形乾山は、椿の花びらを器の内外、さらに縁の形状にアレンジして、それまでにない洒落た向付をつくりました。



花鳥図 式部輝忠筆 2幅のうち
室町時代 16世紀 根津美術館蔵

椿の絵画化は、日本では鎌倉時代にさかのぼります。室町時代には、水墨画系の画家たちが椿を好んで題材として、定式にとらわれない、写生味のある椿図を描いています。

[関連情報]

◆講演会1「百椿図と寛永文化」

日時 2012年1月21日[土] 午後2時から午後3時30分
講演 野口 剛(根津美術館 学芸主任)

◆講演会2「(演題未定)」

日時 2012年1月28日[土] 午後2時から午後3時30分
講演 安村 敏信氏(板橋区立美術館 館長)

場所はいずれも根津美術館 講堂、定員140名

〈申込方法〉 往復はがきに、希望する「講演会1」または「講演会2」、住所、氏名(返信面にも)電話番号を明記のうえ〒107-0062 東京都港区南青山6-5-1 根津美術館「百椿図」展係にお申込み下さい。

「講演会1」は2012年1月7日[土]、「講演会2」は1月14日[土] 締切(当日消印有効)

※参加希望者1名につき1枚の往復はがきでお申し込みください。応募者多数の場合は抽選となります。

※聴講は無料ですが、入館料をお支払いください。

◆ギャラリートーク

2012年1月13日[金]、2月3日[金]

※ いずれも午後1時30分より約45分間イヤホンガイドを使って行います。

※ 当日先着30名様に限らせていただきます。

※ 午後1時よりホールにて整理券を配布します。

※ 参加は無料ですが、入館料をお支払いください。

－同時開催－ 《テーマ展示》

■ 展示室2 「天部の絵画 ―守護と福德の神々―」

ほとけと人間のあいだに位置する「天部」は、如来や菩薩よりも私たちに身近に存在する神として広く信仰されています。四天王や十二天といった守護神、弁才天や吉祥天などの福德神が、天部を代表する神々です。展示室2では、根津美術館が所蔵する天部の絵画・工芸から、選りすぐった約10件をご覧ください。

弁才天（サラスヴァティー）は、もともとヒンドゥー教の河神でしたが、やがて音楽、学芸を司り、財福をもたらす福德神として信仰されます。本作品は、琵琶を弾く姿を優美に表した優品。

弁才天像 鎌倉時代 14世紀 絹本着色 根津美術館蔵



■ 展示室5 「山水の器」



染付山水楼閣文台鉢 肥前 江戸時代 17世紀
根津美術館蔵

大きな台鉢に描かれた険峻な山並み、谷間にひっそりと佇む三重塔と家々、手前に描かれた橋はどれも静まり返っています。人影のない風景で、遠くには黒い雲が湧き、近づくと夕立を暗示しています。

■ 展示室6 「初釜を祝う」



五彩雲龍文水指 明時代 16-17世紀
根津美術館蔵

新春を迎えて初めて開く茶会を初釜と称します。新年、2012年の干支である龍の文様の花生や水指、歌会始のお題の「岸」にちなんだ大海茶入など、来福を願う茶道具約20点を展観します。

【開催概要】

- 【展覧会名】 コレクション展「百椿図 ―椿をめぐる文雅の世界―」
- 【主催】 根津美術館
- 【開館期間】 2012年1月7日[土]～2月12日[日]
- 【開館時間】 午前10時～午後5時 [入館は午後4時30分まで]
- 【休館日】 毎週月曜日 ただし1月9日[月・祝]は開館、翌10日[火]休館
- 【入館料】 一般1000円 学生800円
* 20名以上の団体、身障者手帳提示者および同伴者1名は200円引き
* 中学生以下は無料
- 【前売券】 一般900円 学生700円
* 2011年11月16日[水]～12月25日[日]受贈記念特別展「中国の陶磁・漆・青銅」開催期間中、根津美術館ミュージアムショップにて販売
- 【アクセス】 地下鉄銀座線・半蔵門線・千代田線〈表参道〉駅下車
A5出口（階段）より徒歩8分、B4出口（階段とエスカレータ）より徒歩10分、
B3出口（エレベータまたはエスカレータ）より徒歩10分
- 【住所】 〒107-0062 東京都港区南青山6丁目5番1号
- 【お問い合わせ】 TEL 03-3400-2536（代表）
- 【ホームページ】 <http://www.nezu-muse.or.jp>
- 【携帯サイト】 <http://www.nezu-muse-app.jp>
*携帯サイトは、機種により閲覧できない機能があります。
- 【専用アプリ】 「App Store」・「Android マーケット」から「根津美術館」を検索

Available on the
App Store

Available in
Android
Market

第2回「はじめての茶席 — 雛まつりの席 —」2012年3月8日[木]開催

2012年1月7日[土]～販売開始

この秋、はじめて販売し好評だった「はじめての茶席 — 秋を楽しむ —」の第2弾として、来年「虎屋のお雛さま」開催期間中となる3月8日[木]、「はじめての茶席 — 雛まつりの席 —」を開催します。この茶会では展示とあわせ和菓子の老舗、虎屋のお菓子を一緒にお楽しみいただきます。

参加証は、「百椿図一椿をめぐる文雅の世界」会期初日（2012年1月7日[土]）より、美術館受付にて販売。定員になり次第終了となります。

— 手のなかに古美術の愉しさを —

根津美術館「web アプリ」がスタートしました

根津美術館が所蔵する日本・東洋の古美術作品や、ギャラリー、庭園など、その魅力を国内外に広く伝えるため、スマートフォン、タブレット端末、携帯電話に対応した根津美術館「web アプリ」を日本語・英語同時にスタートしました。日本美術のビギナーから愛好家まで、幅広い層の方々へ、古美術の愉しさを発信します。いずれも無料。

「App Store」・「Android マーケット」から [根津美術館](#) を [検索](#)
または携帯より [<http://www.nezu-muse-app.jp>] にアクセス



2012年カレンダー、新商品 販売のお知らせ

[ミュージアムショップ]

根津美術館のコレクションの中から“花”をモチーフにした作品を選んだ2012年のカレンダーを10月8日[土]より販売します。表紙は、来年の干支<龍>の姿が正面から大きくあらわされた中国・明時代の名品「堆朱雲龍ついでしゆんりゆう文盆もんぼん」をデザイン。あわせて同じ柄のクリアファイル、ポストカードも販売します。

・2012年カレンダー 2,000円、クリアファイル300円、ポストカード100円



— 次回展のお知らせ —



特別展

「虎屋のお雛様」

2012年2月25日[土]～4月8日[日]

極小雛道具の名品。和菓子の老舗、虎屋に伝わるお雛様が、6年ぶりに展示されます

<リリース・広報のお問い合わせ>

担当: 鎌倉/羽田/白原

TEL 03-3400-2538 広報(直) FAX03-3400-2436 MAIL: press@nezu-muse.or.jp